

# 進路だより 神の川

第2号

発行 令和3年5月20日(木)  
鹿児島県日置市伊集院町郡1984  
鹿児島県立伊集院高等学校  
進路指導部  
☎ 099-272-6015(直通)

## 「わからない」の意味

「何を言いたいのかわからない、中学生が理解できるように説明しなさい」と言われることがあります。なぜ、中学生なのかよくわかりませんが、要するに、専門用語を駆使して難しい文章を作っても誰も理解してくれません。伝えたいことがあれば、かみ砕いた表現にしなさいということだと思います。確かにその通りです。

一方、「私が言っていることの意味がわからない人は、既存の言語では表現し切れないことが起こっているのだと思つてほしい。」(坂井豊貴 Newsweek 20191210号)という話もあります。

「わからない」にもいろいろな意味がありそうです。「既存の言語」を「既存の研究分野」と置き換えてみると、学際的なところでは、用語が錯綜して、同じ現象を複数の言葉で表現してしまうとか、ニッチな部分を拾えないこともあります。それを混乱とみるか可能性とみるか、判断が分かれることです。

『進路だより』には、先輩たちが合格した大学等が載っています。そこには、多くの学部やコースがあります。僕が高校生の頃の理学部は、「数学科」・「地学科」・「物理学科」・

学校長 福留 和宏

「生物学科」・「化学科」でした。友達と、このうち2つをくっつけると20通りあって、それがどんなことになるか考えたことがあります。例えば、「数学地学科」、「生物物理科」、「地学化学科」などです。結論は、よくわからないけど面白そうだなあということでした。結局、二人は工学部と法学部に行ったので当時の大学にそんな講義があったかどうかはわかりません。伊集院高校には、700色の色をもった生徒・職員がいます。みんな違つて当然だし、違いを武器にできます。その違いを、「融合し何か生み出す」、「ずれから個性を発見する」、「特色化の方向を確認する」ことに活かすことができます。その行いの中で、可能性がある「わからなさ」が出現し、その「わからなさ」に対して問い合わせ立てることができれば、説明不足の「わからない」ではなく、既存の枠を超えた何かの可能性を生み出すことになるかもしれません。みんなで自分の色を活かしていきましょう。



## 最近3ヶ年の合格状況

合格数は、( )内の過年度生別明分を含む 令和3年4月5日現在

国公立大学	H31年 合格数	R2年 合格数	R3年 合格数	私立大学	H31年 合格数	R2年 合格数	R3年 合格数	短大・大学校 専門学校・就職	H31年 合格数	R2年 合格数	R3年 合格数	
北海道教育大				早稲田大			1	公立短大	鹿児島県立	17(1)	15(3)	7
京都学芸大				日本体育大	1	1		大分県立		1		
電気通信大			1(1)	日本女子大	1	1	1	三重県立				
東京芸術大				帝京農業大	1	1		国公立短大合計	17(1)	16(3)	7(0)	
名古屋大				創成館大	1	1		近畿大短大部		1		
京都大				武藏大	1	1		西九州短大				
神戸大				東邦大	1	1		福岡工業大短大				
大阪教育大	1			東洋大	1	1		香蘭女子大	1	1		
岡山大				奈良大	1	1		福岡女子大			1	
広島大	1			関西学院大	1(1)	1(1)		九州龍谷大				
山口大	1			同志社大	2(1)	1(1)		福岡医療大				
愛媛大		1		京都産業大	1(1)	1(1)		佐賀女大				
九州大				関西福祉科大	2(1)	2(1)		鹿児島女子大	7	8	10	
九州工業大		2(1)		京都女子大	1	1		鹿児島純心女子大	10	11	7	
福岡教育大	1	1	3	大阪産業大	1(1)	1(1)		第一幼稚教育	1			
佐賀大	1	2	1	近畿大	2(1)	2(1)		その他				
長崎大	1		3	関西福祉科学大	2	2		私立短大合計	19(0)	21(0)	18(0)	
熊本大	2		1	京都芸術大	1	1		海上保安大学校		1(1)	1(1)	
大分大	2		1	大阪経済大	1	1		水産大学校		1		
宮崎大	1	3	1	岡山理科大	1	1		九州職能大				
鹿児島大	24(4)	18(1)	16(3)	環太平洋大	1	1		その他の他		1(1)		
琉球大	5	2	3	広島工業大	1	1		大学校合計	0(0)	3(2)	1(1)	
国公立大学小計	39(4)	29(2)	31(4)	西南学院大	1	2		大短期大学合計	3	2	2	
長岡造形大			1	福岡女学院大	1	2		川内職能大	3	2	2	
福知山公立大		1		福岡工業大	4(2)	5	4	国立波方海上技術大		1		
尾道市立大			2	九州産業大	7(2)	3	4	その他の他	3			
山口東京理科大	1			共立大	1			短期大学校合計	6(0)	3(0)	2(0)	
山口県立大	1		1	日本工大	1			医療センター附属大	1	1	4	
下関市立大		3	1	九州女子大	1	1		鹿児島医療技術大	8	15	10	
北九州市立大	1	4	1	筑紫大	1	1		鹿児島医療福祉大	5	5	3	
福岡女子大	1			第一薬科大	1	1		久木田学園	1			
福岡県立大		1		西日本大	1			鹿児島歯科大学院	2	3	2	
熊本県立大				九州大	1			神村学園専修大	11	4	2	
長崎県立大	1			福岡大	3(2)	5	4	鹿児島中央看護大	4	4	4	
宮崎県看護大				日本大	1			鹿児島看護大	6	1	2	
宮崎公立大				久留米大	5	2	4(1)	赤塚学園看護大	7			
名桜大				福岡大	1	1		川内看護大	1		1	
公立大学小計	6(0)	13(1)	6(0)	久留米工大	1	1		第一リハビリ大	2			
国公立大学合計	45(4)	42(3)	37(4)	福岡産業大	4(2)	2(1)	2	鹿児島医療工学大	1		2	
私立大学合計	130(16)	134(7)	123(8)	九州大	7(2)	6	5	その他の他	5	11	6	
				九州農業大	6(1)	4(1)		看護医療系小計	47	34	44	
				九州保健福祉大	1	3		KCS鹿児島情報大	1	4	4	
				熊本保健科学大	3	3		鹿児島キャリアデザイン大	2		1	
				熊本大学	1	1		今村学園ライセンスアカデミー大	1	2	3	
				崇城大	1			赤塚学園美容デザイン大	1			
				九州看護福祉大	1			鹿児島工学院	2			
				第一工科大	3(2)	9	6	鹿児島県美容大	2			
				宮崎大	49(2)	45(1)	42(2)	鹿児島環境情報大	2			
				志學館	20(2)	23(1)	15(1)	福岡ビジョナリーアーツ大	2		3	
				鹿児島純心女大	13	7	7	その他の他	4	6	4	
				その他の他	2(2)	6	5	医療系以外小計	12	14	17	
								専門学合計	59	48	61	
								地方公務員	2	3	2	
								自衛隊(のべ)	2	2	1	
								一般企業	1	4	3	
								自営業	2			

# 合格体験記

進路だより 神の川

## 知識は選択肢

鹿児島大学工学部先進工学科化学工学プログラム 溜池 龍希

私の3年時の勉強について書きたいと思います。一個人の勉強法なのでこれでも鶴飲みにしないでください。

まず、私は家で勉強ができませんでした。スマホやゲームがある上に手を抜いても誰も何も言いません。だから私はその分学校での勉強に力を入れる必要がありました。私は部活を引退してから2次試験が終わるまでほぼ毎日6時半まで学校に残っていました。騒がしそうな静かすぎず良い環境でした。土日に積極的に学校に行くのも良いと思います。

次に勉強の仕方についてです。私は最初にとりあえず知識を詰め込みました。教科書、資料集、参考書などを全部読みました。国、英は教科書を読んでも意味がないと思ったので単語帳や辞書を読んでいました。さすがに辞書は全部は無理でしたがおすすめしたいのは一単語調べるときにそのページを全部通ることです。知識を詰めた後は知識の理屈を知ることにしました。知識の根底にあるものを理解することで忘れにくくなると思ったからです。この時文字で理解せず絵や像で理解しました。例を作ると理解しやすくなります。最後に知識同士を結びつけました。知識間に関連性を持たせることは問題を解く上で大切だし、やはり忘れにくくなります。勉強法は十人十色なので独学でやるのも塾の講師や先生、友達の勉強法を参考にするのも良いと思います。

みなさんに1つこの1年でやってほしい事があります。それは「疑問に思う」です。目の前の情報をただ頭に入れるのではなく、なんで○○なのか、○○とは何かと考えてほしいのです。新たな知識を得ることにデメリットはありません。常にアンテナを張り巡らせてください。勉強以外にも多くの事に役立ちます。

最後に勉強には逃げ道はあっても近道はありません。人生を明るく色どるためにこの一年頑張ってください。

## 保護者から一言

### 先生方に感謝

坂上 直美

(熊本大学理学部理学科 坂上 歩実)

我が家にとって大学受験は3回目。しかし、令和2年度から共通テストに変わったため、初めての受験のように戸惑いました。

1年生の三者面談の時、志望校を聞かれました。息子の口から出てきた超難関大学名を聞き「普段」と吹き出していました。

しかし、先生は笑うことなく真剣に話を聞いてくださり励ました。親の話すことは聞きませんでしたが、先生の言葉には耳を傾けていました。

また、英検をスッポかしたこともありました。そのような時も「事故に遭ったんじゃないかと心配したんだぞ」と優しい言葉をかけてくださいました。母親である私は怒りの感情しかありませんでしたが、息子の心を傷付けない配慮がとてもうれしかったです。

部活動では、応援にまわる機会が多く、少々くさる日もありました。スコアブックからiPad入力に変わり入力の仕方が一番早いとほめられ、楽しみができます。試合に出場する機会が少なくても居場所を作ってくださいました。

教科準備室に質問に行くとその年の教科担ではなくても快く質問に答えていただけたと聞きました。

共通テストに変わることだけではなく、世界の人々が体験したことのない新型コロナウイルス感染症の恐怖の中で、安心して受験できたのは、先生方のおかげだと感謝しています。担任の先生をはじめ、学年、学校全体で受験に取り組んでくださっていることが伝わってきました。親の言うことは聞かなくても先生方の言葉を信じてお任せして本当に良かったと思っています。

人生の大きな波はこれからの方が大きいと思います。つまづいたり悩んだりした時にはこれからも相談に乗ってくださるとありがたいです。

## 未来の私のために今の私ができること

鹿児島大学法文学部人文学科心理学コース 土川 桜子

私は高校3年間において、常に未来の私のことを考えて進路目標の達成に努めました。よって、今、第一志望の大学に合格できたと考えています。

私が実際に進路目標を決めたのは高校3年生になってからでした。それまでは、自分のやりたいことは見つかっていませんでしたが、私はいつも、将来私がどの職業になりたいと思っても自分の努力によって諦めることにならないよう学力をつけるようにしていました。テスト前の部活動中止期間は毎日最後まで学校に残って勉強をし、分からぬ所は友達や先生に聞きに行つて、一つずつ穴を埋めていくようにして、テストでは常に上位に位置していました。また、通知票の評定で5をとるために、提出物はもちろん、日頃の授業態度にも気をつけていました。

進路目標が決まってからは、目指すものがはっきりとして、さらに勉強に磨きをかけていきました。模試では徐々に点数や判定が上がっていきました。しかし、共通テスト前、年が明けてからの模試では、今までずっと上がっていた点数が下がっていき、努力が点数につながらず、一番つらい時期でした。ですが、私は未来の私のためにできることは、落ち込むことではなく、ひたすらに勉強することだと自分を奮い立たせて勉強をしました。無事、共通テストでは今までの中で最高点数をとり、目標であった7割を超えることができました。

共通テストが終わってからは推薦入試に向けて面接練習が始まりました。私以外に心理学を目指す人やグループディスカッションを使う人は少なかつたですが、たくさんの友達が協力してくれたり、多くの先生方が指導して下さったり、充実した練習をすることができました。しかし、肝心の本番では、練習してきた成果を十分に発揮することができず、練習を手伝ってくれた友達や先生方に申し訳ない気持ちになりました。不合格だと確信していましたが、予想外にも合格を勝ちとっていました。共通テストの点数が支えてくれ、私が未来の私のために努力してきたことがここで活かされたのだと思いました。

最後に、3年生になってからは部活動を引退したり、芸術の授業がなくなったりと、勉強ばかりの日が続き、精神的につらいと思います。勉強は苦しいかもしれない。でも、今あなたが我慢して勉強することで、未来のあなたは笑つて次のステップへ向かうことができるでしょう。応援しています。頑張れ！

## “合格”を信じて

帖佐 史織

(早稲田大学社会学部・同志社大学経済学部 帖佐 梨帆)

私は、今回の末娘の受験を通して貴重な経験や多くの学びがありました。

私が、娘の受験で大事に考えたことは、彼女の特性を活かした受験方式を用いることです。娘は高校受験で涙を流しているので、今度こそ第一志望に合格させたいという気持ちもありました。娘は幸いなことに部活動で活動実績があり、英語資格も所持していたので、そのことが有利になる大学を調べ、二年時には、早稲田大と同志社大の受験を決めました。早い段階で志望校を決めるのはとても大事なことだと思います。逆算して出願条件や英語資格などの対策もできました。

娘は総合型選抜という推薦入試方式を選択しました。志望校は併願も可能でした。一次の書類(調査書・志望理由書と実績報告書)選考後に、二次試験で小論文、英語、面接などがありました。

大変だったことは一般入試の勉強との両立と情報の収集でした。推薦は評定や英語資格が重要になるので定期テストや英検対策も大事です。総合型選抜は、出願時期が早いので、書類作成など夏頃から準備は始まります。出願方式・試験内容も大学によって異なるのでネットなどでも入念な下調べをしました。体験談なども探して読み、娘に伝えました。子供も受験勉強が非常に忙しくなり混乱していくので情報の整理及びスケジュール把握は保護者もまとめておいた方がいいと思います。大学受験に関するることは期日に遅れることは絶対に許されません。今の大學生入試はネット出願・入学手続きも多くなっています。手続き関係は慎重に早目に行いました。二学期から、娘は本格的に忙しくなり、ほぼ推薦入試対策に追われました。私も、もしされでダメだったら、一般入試に間に合うのかと大変不安もありましたが、娘には自信を持って、「絶対合格する。あなたは志望大学のアドミッションポリシーにピッタリだもの」と言って常に気持ちが上向きになるように心がけました。11月の早稲田受験の際は、コロナ禍の東京で、試験にベストを尽くせるように気を配りました。しかし、大事な受験票を忘れての受験となつたのが大反省でした。

12月、ネットでの合否発表で、早稲田の合格という二文字を見て震えて涙が出ました。娘は、伊高で充実した学校生活を送り、諸先生方の熱心なご指導のお陰で、夢の志望校に合格できたと思います。